



ニューヨーク補習授業校だより

## 絆・きずな

平成 30 (2018) 年

5月12日発行

第3号

夢のふくらむ学校

### ニューヨーク補習授業校体験記

教頭 坂口 一成



アメリカに着いた翌日が第1回目の授業日であり、入学式・始業式がL I校、W校それぞれの校舎でありました。そのような補習授業校でのスタートでしたが、早くも1か月が経ちました。私にとっては、初めての体験ばかりで、刺激の多い日々を過ごしています。その中で、補習校の子どもたちや先生方、保護者の方と出会って感じたことを紹介します。

#### ☆ 子どもたちの恵まれた環境が羨ましい

何と言ってもこれです。私も子どもの時に補習校に通っていたら、今教頭をしていないでしょう。正に、これからの日本を、いや世界を担うべく来ている子どもたちだと本当に思います。様々な人との関りを通して、いいこともいやなことも、充実感も挫折感も、生活そのもので経験ができる。それもとびきり特別な。それだけでも国際社会で通用する基礎を自然に学んでいるのです。この学校からどんな有名人が出てくるのが楽しみです。



#### ☆ 保護者の熱意と協力体制がありがたい

「補習校は、保護者の協力なしには成り立たないよ。」と日本にいる時に言われました。来てみて、その理由が分かりました。教室前の安全確認をはじめ、図書室経営、運動会の準備などなど、学校側だけではとても運営ができない部分をしっかりと支えていただけていました。保護者の熱意を感じます。それに応えるためにも、全力で児童生徒の育成に力を注がなければと改めて思いました。

#### ☆ 先生方の授業の準備がすごい

補習校は校舎を借りています。先生方は土曜日だけの自分の教室、自分の授業をするのです。当然ですが、その準備物は「すごい」の一言に尽きます。

旅行カバンには子どもの作品や、学習で使用する教材がぎっしり入っています。週1回きりの授業にかかる先生方の想いや意気込みが教材の量に表れているのです。そのような先生方と学べる子どもたちは幸せです。



## LI校

5月5日のこどもの日に合わせて、幼児部では鯉のぼりやカブトを作って、記念撮影。廊下には、五月人形のカブトも飾られ、子どもたちも興味津々でした。



## W校

4月28日は、今年度第1回の避難訓練として、「不審者対応～ロックダウン」の訓練を行いました。

自分の身は自分で守る、という自己管理の姿勢を子どもの頃から身につけることは必要かつ大切なことだと思います。子どもたちは、先生から訓練について説

明を受けた後、外から見えないところに身を隠しました。先生方は、ドアを内側からロックし、消灯の上、子どもたちには余計な恐怖心を与えないように配慮しながらも、真剣な姿勢で訓練に臨みました。

なお、当日は、所轄のライブルック警察署から警察官お一人が視察に来られました。迅速で、確実な対応（避難解除まで7分）に感心しておられました。



## お知らせ

お子さんが、怪我をはじめとして何らかの身体的なハンディキャップがある場合（足を骨折して松葉杖や車いすを使用する場合等）の、保護者の送迎について、以下のとおり共通理解をお願いいたします。LI校～1階駐車場からエレベーターで3階に上がることができます。ご案内しますので、その都度山口主幹にご連絡ください。なお、送迎後は速やかに移動をお願いします。W校～正面玄関前のハンディキャップ用スペースをご利用ください。事前にご連絡いただければ、駐車許可証をお渡します。ただし、1台分しかありませんので、送迎後は速やかに移動をお願いします。